

岩手県盛岡市（国内 26 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 7 年 1 月 11 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約 40 万羽）
発生家きん舎の構造：ウインドウレス鶏舎
発生家きん舎の飼養形態：直立 6 段ケージ 4 列、通路 5 本

2 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、周囲に圃場及び牧草地が多く存在する平地であり、近隣に多くの養鶏農場が存在する。
- ② 当該農場には 10 鶏舎のウインドウレス鶏舎がある。北側に集卵施設があり、その隣から 1 号～10 号鶏舎が配置されていた。発生鶏舎は、8 号鶏舎であり、発生時には、全ての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。すべての鶏舎がバーコンベアで集卵施設に接続されていた。
- ③ 全鶏舎が直立 6 段 4 列、通路 5 本、2 階建てで、2 階床面はグレーチングだった。1 ケージには 7 羽が飼養されていた。
- ④ 衛生管理区域内には鶏舎の他に、事務所、集卵施設が設置されていた。
- ⑤ 発生農場は、西側に系列の育成農場、東側に系列の採卵鶏農場が隣接しているが、各農場の間には 10 メートル程度の高低差があり、当該農場が中間に位置していた。
- ⑥ 農場周辺の圃場、牧草地は 20cm 程度の積雪で覆われていた。

3 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎（8 号鶏舎、収容羽数約 4 万羽、約 600 日齢、強制換羽後）では、平均的な死亡羽数は 2～3 羽／日であったところ、1 月 9 日に 7 羽死亡し、10 日の午前中に 15 羽死亡したため午後も確認したところ、更に 6 羽の死亡が確認されたことから家畜保健衛生所に報告したとのこと。
- ② 死亡鶏が発生したケージはバラバラであり、ケージ内での死亡も全て 1 羽であったとのこと。
- ③ 調査当日は、発生鶏舎では、2 階の南側壁沿いの 1 ケージとその両隣のケージで固まって死亡しているのが確認されたほか、鶏舎全体で数羽の死亡が散在して確認された。

4 管理人及び従業員

- ① 従業員は鶏舎担当が 3～4 名、集卵施設担当が 10 名、鶏糞処理担当 1 名であり、他農場との兼務は無い。本社の管理職は農場間を行き来することがあるが、鶏舎に立入ることは無く、必ず本社でシャワーを浴びてから次の農場に向かうとのこと。

- ② 鶏舎担当者はそれぞれ受け持ちの鶏舎（3～4 鶏舎）が決まっているが、休みの関係などで他の鶏舎に入ることもある。

5 農場の飼養衛生管理

- ① 衛生管理区域の境界にフェンス等は設置されていなかったが、出入口は消石灰帯により区分しているとのこと。
- ② 飼料運搬車、鶏卵輸送車及び従業員の車両の消毒については、当該農場から約 200m 離れた消毒ゲートで行い、廃棄卵と死鳥の運搬車両の車両消毒については、発生農場西隣の育成農場近くにある、近隣の系列 3 農場と共有の消毒ゲートで行うとのこと。なお、衛生管理区域入口では、消石灰帯を通過しているとのこと。
- ③ 従業員は、消毒ゲートを通過し、衛生管理区域内の農場事務所の駐車場に車を止め、事務所で衛生管理区域専用の作業着、長靴、手袋を着用するとのこと。
- ④ 鶏舎に入る際は、消石灰槽と踏込み消毒槽で靴を消毒した後、鶏舎内用の靴に履き替えていた。
- ⑤ 鶏舎内の換気は、2 階部分の鶏舎平側のインレットから吸気し、東側の妻面の大型ファンから排気していた。入気口の外側には目が 1 辺約 2 cm 亀甲型の金網が設置されていた。
- ⑥ 飼養鶏への給与水は、地下水を塩素消毒して使用している。
- ⑦ 飼料は各鶏舎横に閉鎖式の飼料タンクがあり、インラインで給餌されている。
- ⑧ 集卵は集卵ベルト及びバーコンベアで行っており、集卵バーコンベアは全て集卵施設に直接つながっており、屋外に露出する部分は上下ともカバーで完全に覆われていた。集卵施設と鶏舎を繋ぐバーコンベアには、手動で閉めるタイプのバーコンシャッターが設置されていたことから小動物の侵入は難しいと考えられた。
- ⑨ 鶏糞は、ケージ下部の鶏糞ベルトから、床下に設置されたベルトに落とすことで鶏糞ピット室に運ばれ、直接舎外の堆肥運搬用トラックに積み込み、農場から 500 メートルほど離れた堆肥化施設へ運ばれる。床下のベルトに鶏糞を落とす開口部は、使用時以外は蓋をしており、ピット室側からの小動物の侵入は難しいと考えられた。堆肥化施設は系列農場で共有しているが、車両は当該農場専用であったとのこと。除糞時のケージ横のカーテンや蓋の閉鎖は鶏舎内担当者が、ベルトの操作は堆肥作業担当者が鶏舎から行うため、作業時の鶏舎の出入りはなかった。鶏糞をピット室からトラックに排出するための外部コンベアは、上部・側面ともにカバーで覆われていた。
- ⑩ 死亡鶏は、鶏舎ごとに毎日集め、ポリバケツにいれて、農場内の倉庫に一時保存したあと、育成農場近くの消毒ゲートでそれぞれの輸送車両に中身だけを引き渡していた。死亡鶏の運搬は、鶏舎作業担当以外の従業員が行っており、農場出入りの際の消毒等は行っていなかった。
- ⑪ 廃棄卵は、毎日回収し、蓋つきのポリバケツにいれて、農場内に一時保管後、一定量が溜まった時点で輸送車両に容器ごと積み込み、車両とともに消毒後、系列の鶏糞処理施設に搬出し、密閉型のコンポストで堆肥化処理している。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 鶏舎に外部とつながる壁面の破損や扉の隙間は確認されなかった。
- ② 発生鶏舎内では鶏舎壁面の梁などで生きたネズミが確認された。また、調査時に複数の死亡鶏が認められたケージの向かいの壁面に羽が散在しており、梁内にネズミが営巣していた。飼養管理者によると、鶏舎内でネズミ以外の動物をみることはないとのこと。
- ③ 飼養管理者によると、敷地内ではネコをよく見かけ他には、カモシカ、キツネ、タヌキ、ウサギをたまに見かけるとのこと。調査時には、東側の農場との境ののり面に猫を確認したほか、数羽のカラスやスズメを確認するとともに、雪の上に複数の哺乳類や野鳥の足跡が確認された。
- ④ 数年前に発生農場周辺でカラスが多く死亡し、HPAI が確認された経緯があったことから、カラス対策として、猟友会による駆除及び音による威嚇等を行っているとのこと。
(以上)